

関高FRH情報 第89号

令和3年2月5日(金)

FRHプロジェクト委員会

今回は第3回FRH講演会（若生幸也氏）の報告です。

◇ 本校FRHアドバイザーの若生幸也氏による講演会を開催しました！

日 程： 2021年1月28日（木）6・7限
対 象： 1年生全員
演 題： 「グローバルとまちづくりの接点 グローカルを考える」
講 師： 若生幸也（わかおたつや）氏 （富士通総研公共政策研究センター長）
形 式： ウェブ会議システムを活用したオンライン講演会

<講師プロフィール>

関高等学校出身。金沢大学法学部、東北大学大学院法学研究科修了。2008年、富士通総研に入社。北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策研究センター専任講師に出向（2013年3月まで）。現在、富士通総研公共政策研究センター長。東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、関市まちづくり市民会議政策アドバイザー、関高等学校FRHアドバイザーを兼務。

自治体経営改革・地域政策などのコンサルティング・調査に取り組む。趣味はまち歩きと旅行。モットーは、「気付いた人間が動くこと。それが気付いた人間の使命である」。

◇ 講演までの経緯と当日の様子

今年度の1年生は、「SDGsとまちづくり」をテーマに、課題解決型研究に取り組みました。およそ2か月に及んだ休校期間中は、NIE（新聞学習）やMBL（メディア学習）などの課題に取り組んだほか、外部講師によるオンラインセミナーも受講しました（FRH情報5・6号）。さらに夏季休業中には、フィールドワークの代替措置として、市内事業者によるオンラインセミナーにも参加しました（FRH情報17号、39～65号）。

各自が進めた取り組みに関しては、各クラスで共有し、全員がレポートやポスターにまとめています（FRH情報69号）。さらに、クラス代表を選出し、3月12日の発表会において準備を進めているところです。

今回の講演会の講師、若生幸也さんは、日本を代表するシンクタンク富士通総研に勤務しつつ、大学の研究員をこなす公共政策の専門家です。一方で、関市のまちづくりや関高校の探究活動のアドバイザーとしてもご活躍です。

今回は、本校1年生が1年間、まちづくりとSDGsについて探究してきたことを踏まえ、グローバル時代の地域社会の現状と課題について、語っていただきました。人口動態や多文化共生、産業の現状などに関し、具体的なデータを示していただけたので、お話に説得力を感じました。1年間、地域社会の課題に取り組んだ今だからこそ、一人ひとりに響くものであったと思います。

当初は、対面による講演や生徒との座談会も予定していましたが、感染症の現状を考え、オンライン講演会に変更しました。当日、若生さんをご自宅での勤務。ウェブ会議システムで関高と繋いでの講演会でした。座談会が実現できなかったことは残念ですが、リモートワークやオンラインによる交流の良さや意義について考える機会にもなりました。



◇ 生徒の感想

「魅力あるまちづくりのポイントは多様性と寛容性」
「活力のあるまちには才能をひきつける 才能をひきつけるのは多様性」

(若生さんの講演より)

◆魅力的なまちづくりのためのポイントがわかりました。世界全体の波に乗りグローバル化を進めることと、地域に目を向けて限定的な策をとることの両方、まさにグローバルが重要だと思いました。また、終盤の「多様性と寛容性」に関わる話が印象に残りました。

日本も岐阜県も関市も、人口が減ってってしまうこの危機を、地域を知り見つめることで乗り越えていきたいです。そのためにも外の世界に出て新しい視点を持つこと、また戻ってこられる環境をつくるのが大切だと思いました。

◆グローバル化に焦点をおき、そこから地域を考えるグローバルの精神、視点をもつことが大切であるということが今日の講演で理解することができました。また、関市の現状と未来の姿を詳しくお話していただいたことで、関市をより深く知ることができて、自分が今後どのような行動・思考をしていけばよいのかがわかりました。私は、関市、岐阜県の教員として働くために、県外の大学に進学し、もう一度、関市に戻ってこようと考えています。今回の講話で学んだ様々なことを念頭に置いて、教育を通じて、岐阜県そして関市の課題について追求していきたいと思えます。

◆自分もFRHでまちづくりについて調べていて、調べ足りなかった関市の情報や、これからの傾向について知ることができたので参考になった。また、グローバルとローカルを合わせた言葉を初めて聞いて、視点を関市や他の市町村との視点だけでなく、世界規模からみて「多様性と寛容性」を重視したグローバルな視点を持つことが大切だとわかった。

◆住み続けられるまちづくりのためには、グローバルな視点が重要であることがわかりました。関市は人口が減少しているのが現状で、若い世代が進学や就職などによって、他の地域に移動していることを知りました。少子高齢化が進む中で、市は農山村部や高齢者に支援するべきであると思いました。特に医療の支援で、人口減少の流れを少し抑制することが可能になると思えます。

◆今回の講演を聞くまでは「グローバル」という言葉を知らなかったけれど、よりよいまちづくりをするうえでとても重要になることがわかりました。関市は刃物などの製造業が強いということなので、製造業を成長させつつ、関市が弱い情報通信産業を同時に伸ばしていくことが大切だとわかりました。小売業がインターネットショッピングなどで大変だということなので、私が買い物をする時には、できるだけ地元の店でということ意識してみたいと思いました。

「活力のある町は才能をひきつける。才能をひきつけるのは多様性」ということなので、今までのやり方にこだわらず、様々な方法で地元を盛り上げていくことが大切だとわかりました。多様な方法で地元経済を活性化し、人口減少をくい止め、関市がより「グローバル」なまちになってほしいと思いました。

